



耐光性・耐熱性があり食器洗浄機に対応した漆器を開発

漆器文化の伝承に努め、時代と共に変化する生活様式に対応すべく、ナノ粒子を用いた食器洗浄機を利用出来る漆の開発に成功。

本業の動向について

需要の停滞を感じる部分と景気低迷による高級品の販売不振が顕著に現れている。リーマンショック以降は売り上げで約3割減少している。

公設研究機関との連携事業について

連携先公設研究機関の名称

石川県工業試験場

所在地

石川県金沢市鞍月2丁目1番地

連携内容

ナノ粒子を用いた、耐光性・耐熱性があり食器洗浄機に対応した漆の開発。

連携した動機やきっかけ

日頃から石川県工業試験場へ技術面での相談・提案なども行い交流を持っていた。そのような活動の中で、他の漆器産地で食器洗浄機を使える漆の開発に成功したとの話を耳にした。他の産地とは異なった製法の耐光性・耐熱性を持った漆の開発を行いたい旨を申し出たのが始まりである。

連携の効果

試作品の製造や耐久性試験、設備の提供などに快く協力して頂いたお陰で、開発を試みた漆を完成させる事ができた。

連携して最も効果のあったこと

開発がスムーズに効果的に進められ、短期間の内に食器洗浄機に対応した漆を開発することが出来たこと。

連携して最も困難だったこと

特別感じたことはなかった。

連携するメリット・デメリットについて

メリットとして、公設機関には民間企業が所有しようとした場合、多額の設備投資が必要になり自社所有

の困難な検査・製造器材装置を提供していただける。それにより新たな開発に乗り出すことが可能となること。また、そこから得られるデータや結果は貴重で有効なこと。

デメリットは、共同開発によって新しい製造技術や新製品の開発に成功した場合、その多くは技術公開されてしまうこと。

連携に際しての注意、アドバイスなど

何を目的としているのかを明確にしたうえで依頼を掛けることが重要で、研究が進む中での各段階に応じた目標設定を行い対応すること。

公設研究機関との連携で行政に望む支援

現時点では特にない。

会社概要

設立:1966年7月(昭和41年7月)

資本金:1,800万円

従業員数:16名

URL:<http://www.kanazawa.gr.jp/>